



## 第1回 資源の循環～地球ひとつワークショップ

### 渋谷区立猿楽小学校 X 東急不動産ホールディングス X SWITCH 実施報告書

#### ●「地球ひとつワークショップ」開催目的

世界中の人が日本人と同じ水準の生活をするに、地球は2.9個分必要になると言われています。地球ひとつで暮らしていくために、サーキュラーやサステナブルを日常に落とし込むきっかけをつくるプロジェクト「CIRTY」を行う「TENOHA 代官山」で世代や業界を超えた共創や環境リテラシー向上につながるワークショップを行い、代官山の地域単位のサステナブル化に繋がります。

#### ●概要

TENOHA代官山を訪問し、第1回目のテーマ「資源の循環」にちなんだロスフラワーや量り売りなどの取り組みを見学しました。猿楽小体育館にて2クラス合同ワークショップを行い、「東急不動産ホールディングス」より見学のおさらいをしていただき、TENOHAの利用者に向けたメッセージを書くワークを行いました。SWITCH代表佐座から資源の循環についてのレクチャー後、グループワークでは資源の循環についてSWITCH佐座の紹介した海外・国内の小学校の取り組みを参考に、猿楽小4年生で実践するアイデアを考えました。

**開催日時** 2024年6月28日（金）13:00～15:00

**参加者合計** 4年1組24名/4年2組23名 合計47名

**会場** TENOHA代官山・猿楽小学校体育館

**共催** 東急不動産ホールディングス・一般社団法人SWITCH

**協力** 渋谷区教育委員会・渋谷区立猿楽小学校・  
日本財団 海と日本プロジェクト



#### ●タイムテーブル

13:20 TENOHA代官山見学(40分)

14:20 2クラス合同ワークショップスタート：東急不動産ホールディングス 児玉/TENOHA見学のおさらい

14:35 SWITCH 代表佐座/資源の循環についてのレクチャー

14:40 グループワーク/猿楽小4年でできる分別

14:50 東急不動産ホールディングスとSWITCHからのコメント

15:00 終了



## ●TENOHA代官山 見学

小学生はグループ別にTENOHA代官山の「資源の循環」の取り組みを見学しました。具体的にはゼロウェイスト斗屋屋の「CIRTY BIOSK by toyota」外に設置された資源分別(缶・ビン・PET・プラ・燃えるゴミ) BOX、コンポストBOX、屋上菜園について学びました。また、野菜の量り売りでは実際に野菜をカゴに入れ、量を測って買い物をする実践をし、ムダのない・ゴミを出さない買い物を体験しました。

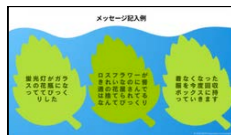
TENOHA代官山店内では1階のロスフラワーと販売されているリサイクルボトル、カフェで提供されているサーキュラーアイス、2階の回収BOX(衣料・小物・紙パック)、そして猿楽小からのメッセージ展示コーナーを見学しました。



見学のおさらい



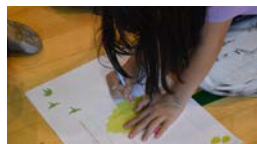
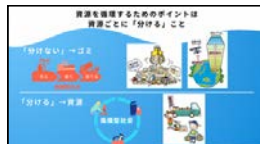
資源の循環の紹介



個人ワーク  
(メッセージ記入)

## ●東急不動産ホールディングス・TENOHA 代官山レクチャーとのお客さんへのメッセージ

TENOHA代官山で見学した食べ物の量り売り・ロスフラワーの販売・カフェやリサイクルボックスなどのおさらいをしながら、捨てずにまた使う「資源の循環」についてレクチャー。見学した中で「スゴイ!」と思った点と自分でもできる資源の循環のアイデアを「TENOHAのお客さんへのメッセージ」としてワークシートと葉っぱ型のメッセージカードに1人ずつ記入するワークショップを実施しました。



## ●一般社団法人 SWiTCH レクチャー・グループワーク

ゴミを出さず、資源を循環する循環型社会を実現するために「分別」の重要性についてレクチャーをし、ドイツやスウェーデン、静岡・京都の国内外の小学校で行われている取り組みを紹介。その上で、猿楽小学校4年生のクラスで出来る資源の循環分別についてグループワークを行いました。



## ● 4年生のクラスアクションアイデア

資源を大切にするために、「クラスでできる資源の循環分別」について5つのグループに分かれて考えました。子供達は次の授業までに下記に取り組みたいと宣言をしました。

- ・ゴミ箱分別する
- ・エココーナーとポスターを作成
- ・ゴミをへらす
- ・紙をリサイクルする
- ・コンポストするのと、エココーナーを作る



## ● 保護者・来場者とのつながり

最後に「TENOHでスゴイ!と思ったこと」が記入されているワークシートを包装紙にし、TENOHのロスフラワーを保護者へのプレゼントとして渡しました。資源の循環の考え方について子供達が家でも話し合うきっかけになりました。

葉っぱ型のメッセージカードはTENOHの2階にタペストリーとして飾られます。子供達のスゴイと感じた「資源の循環」についてのコメントをぜひ読みに行ってください。



## ● 担当者の声

### 渋谷区立猿楽小学校 成田弥生校長

木の素材の良さを生かしたTENOHの見学では、学校からほど近い身近な場所にこんな素敵な建物があるなんて、足を踏み入れた瞬間からワクワクしました。建物自体がSDGsにあふれ、見ることも、聴くことも全てが新鮮で、驚きの連続でした。子供たちも、身近なことで、自分たちにもできることはないかと自分なりに考える時間にもなりました。これからどんな「問い」が子供たちから出てくるかも楽しみです。

### 4年生 担任 青木智晴 先生

今回のTENOH代官山の見学を通して、SDGsへの取り組みを、子供たちは身をもって体感することができたと思います。インターネットや本だけでは分からない、SDGsへの取り組みやSDGsへの思いを目の当たりにし、子供たちは、新たな発見が出来たと思います。今回の体験を、この後の学習に活かしてほしいと感じました。

### 4年生 担任 佐々木 満美 先生

子供達は、少人数のグループでじっくり話を聞き、実際に見て、とても楽しそうに見学をしていました。少人数だからこそ、その場で見ているからこそ、疑問に思ったことをすぐに質問したり観察したりすることができていました。最後に書いたワークシートも、書く時間が短かったにもかかわらず、いろいろ書けていたのは、見学していろいろ刺激され考えられたからだと感じました。

### 東急不動産ホールディングス 松本恵様と児玉智美様

小学4年生に対して、どんな言葉や工夫をすれば環境課題を考える時間になるのか、手さぐりでSWITCHメンバーと一緒にワークショップを組み立てました。開催当日、小学校からTENOHまで大雨の中の移動となり大変な面もありましたが、子ども達は施設見学の間、集中を切らさず最後まで関心をもって理解しようとしてくれました。こちらからの問い掛けに多くの子がサッと手を上げる積極性も素晴らしいかったです。また、校長先生をはじめ先生方が大変協力的で、スムーズに実施でき感謝しています。

●TENOHA見学のとワークショップの様子





## 第2回 脱炭素～地球ひとつワークショップ

### 渋谷区立猿楽小学校 X 東急不動産ホールディングス X SWITCH 実施報告書

#### ●「地球ひとつワークショップ」開催目的

世界中の人が日本人と同じ水準の生活をする、地球は2.9個分必要になると言われています。地球ひとつで暮らしていくために、サーキュラーやサステナブルを日常に落とし込むきっかけをつくるプロジェクト「CIRTY」を行う「TENOHA 代官山」で世代や業界を超えた共創や環境リテラシー向上につながるワークショップを行い、代官山の地域単位のサステナブル化に繋げます。

#### ●概要

第1回目と同様、TENOHA代官山を訪問し、「脱炭素」にちなんだ再生エネルギーや移築可能な建築、間伐材の利用、バイオマス、そして雨水の再利用の取り組みを見学しました。その後、猿楽小学校にて実施したクラス別ワークショップでは、まず「東急不動産ホールディングス」より見学のおさらいをしていただき、TENOHAの利用者に向けたメッセージを書くワークを行いました。グループワークではSWITCH代表佐座が食品ロスについて説明し、海外・国内の小学校の食品ロスを減らす取り組みを参考に猿楽小4年生で実践するアイデアを考えました。

**開催日時** 2024年7月17日（水）9:25～12:10

**参加者合計** 4年1組23名/4年2組23名 合計46名

**会場** TENOHA代官山・猿楽小学校

**共催** 東急不動産ホールディングス・一般社団法人SWITCH

**協力** 渋谷区教育委員会・渋谷区立猿楽小学校・  
日本財団 海と日本プロジェクト



#### ●タイムテーブル

9:45 TENOHA代官山見学(30分)

10:35 1組ワークショップ(45分)

11:25 2組ワークショップ(45分)

12:10 終了

#### 各クラスワークショップの流れ

- ・ 東急不動産ホールディングス 児玉様/TENOHA見学のおさらい (5分)
- ・ TENOHA利用者に向けたワークシート、コメント記入(10分)
- ・ SWITCH 代表佐座/学校でできる脱炭素「食品ロス」についてのレクチャー (5分)
- ・ グループワーク/世界の小学校での取り組み紹介&猿楽小4年のできる食ロス(10分)
- ・ 東急不動産ホールディングスとSWITCHからのコメント(5分)
- ・ 終了



## TENOHA代官山 見学

小学生はグループ別にTENOHA代官山の「脱炭素」の取り組みを見学しました。飲食店や食品工場の食品廃棄物を利用したバイオマス発電・残リかすを肥料にする取り組み、屋上に溜まった雨水の再利用、ハニカム構造を代表する移築可能な建築、間伐材の利用について学びました。

また、TENOHA代官山2階では前回に記入したTENOHA利用者へのメッセージをタペストリーに貼って掲示したものを見学しました。今回、そして第3回目も同様にメッセージをタペストリーに掲示する予定です。



## 東急不動産ホールディングス レクチャー・TENOHAのお客様へのメッセージ

第1回目で学習した「資源の循環」の復習後、TENOHA代官山で見学したバイオマス・再生エネルギー・屋上での雨水の再利用・間伐材を使用した移築可能な建築のおさらいをしながら、「脱炭素」についてレクチャー。見学した中で「スゴイ！」と思った点と自分でも実践したいアイデアを「TENOHAのお客さんへのメッセージ」としてワークシートとハニカム型のメッセージカードに1人ずつ記入するワークショップを実施しました。



## 一般社団法人 SWiTCH レクチャー・グループワーク

日本では1年間に東京ドーム5個分の食ロスが生まれています。捨てられたご飯は燃やされ、二酸化炭素が発生し、地球温暖化に繋がります。この問題に小学生ができる事としてアメリカやスウェーデン、千葉県など国内外の小学校で行なわれている食ロスを減らす取り組みを紹介。その上で、猿楽小学校4年生のクラスなら何ができるか考えるグループワークを行いました。



## ● 4年生のクラスアクションアイデア

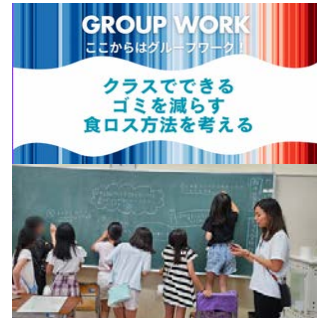
食品ロスを減らすために、「クラスでできる食品ロスを減らす取り組み」についてグループに分かれて考えました。子供達は次の授業までに下記に取り組みたいと宣言をしました。

### 4年1組

- ・赤いシールをゴミに貼って捨てる
- ・ごはんは食べられる量だけ取る
- ・食べ飲み残しをできるだけへらす
- ・食べるこした量を4-1,4-2できそう
- ・バックを使わなくてピンを使う
- ・給食を残さない
- ・食べ残しを記録して他の組と競い合う

### 4年2組

- ・ごみの分別ができていくか確認する
- ・給食の残りを毎日測る
- ・食べ物のあまりを少なめにする
- ・ゴミ箱を増やし掃除の時間にゴミが分別されているかを見る当番を作る
- ・給食の食べ残しが少ないクラスに表彰する燃えるゴミと燃えないゴミ意外のゴミ箱を作る

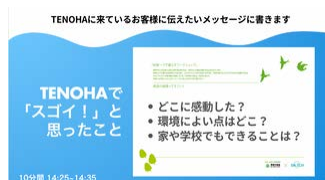


## ● 保護者・来場者とのつながり

第1回目に記入した葉っぱ型のメッセージカードはTENOKHAの2階にタペストリーとして飾られました。

その隣に今回「脱炭素」、次のメッセージも掲示される予定です。小学生達がスゴイと感じた「資源の循環」「脱炭素」の取り組みについてのコメントをぜひ読みに行ってください。

さらに、タペストリーのそばには小学生へのメッセージボードを設置。小学生達のタペストリーへの感想やコメントをぜひお願いします。



## ● 担当者の声

### 猿楽小学校 4年担任 佐々木 満美先生・青木 智靖先生・三木 由喜乃先生

子どもたちは、前回と同様に興味をもって見学し、話を聞いていました。TENOKHA代官山の見学を通して、建物の工夫やエネルギーの視点からSDGsへの取組について学べ、資源が循環していく様子を具体的に知ることができました。SDGsへの取組に向けて、子供たちが自分たちなら何ができるのかを具体的に考える学習になってきたと感じました。

### 東急不動産ホールディングス 松本恵様と児玉智美様

今回のテーマは「脱炭素」。前回の「資源の循環」に比べて内容が難しくなったように思います。それでも子どもたちは、飽きることなくTENOKHA代官山の建物自体の、CO2を排出しない取り組みについて熱心に耳を傾けてくれました。2回目慣れてきたのか、ワークシートへの記入やクラスメイトとのディスカッションもスムーズに行われ、前回よりも多くのアイデアが出ているように思います。

夏休み前の授業でもあり、各家庭で環境について保護者と会話するきっかけとなれば嬉しく思います。

●TENOKHA見学のとワークショップの様子





## 第3回 生物多様性～地球ひとつワークショップ

### 渋谷区立猿楽小学校 X 東急不動産ホールディングス X SWITCH 実施報告書

#### ●「地球ひとつワークショップ」開催目的

世界中の人が日本人と同じ水準の生活をする、地球は2.9個分必要になると言われています。地球ひとつで暮らしていくために、サーキュラーやサステナブルを日常に落とし込むきっかけをつくるプロジェクト「CIRTY」を行う「TENOA 代官山」で世代や業界を超えた共創や環境リテラシー向上につながるワークショップを行い、代官山の地域単位のサステナブル化に繋がります。

#### ●概要

第1-2回目と同様、TENOA代官山を訪問し、「生物多様性」にちなんだTENOA内外の植物や動物の在来種の取り組みを見学しました。その後、猿楽小学校にて実施した合同ワークショップでは、まず「東急不動産ホールディングス」より見学のおさらいをしていただき、TENOAの利用者に向けたメッセージを書きました。グループワークではSWITCH代表佐座が都市の生物多様性について説明し、生物多様性を普及するために子供達ができることについて食品ロスの取り組みを紹介。最後に猿楽小4年生がクラスで実践するアイデアを考えました。

**開催日時** 2024年9月13日（金）13:20～15:00

**参加者合計** 4年1組24名/4年2組22名 合計46名

**会場** TENOA代官山・猿楽小学校

**共催** 東急不動産ホールディングス・一般社団法人SWITCH

**協力** 渋谷区教育委員会・渋谷区立猿楽小学校・日本財団 海と日本プロジェクト



#### ●タイムテーブル

13:20 TENOA代官山見学(40分)

14:00 2クラス合同ワークショップスタート：

東急不動産ホールディングス 児玉/TENOA見学のおさらいとTENOA来場者へのメッセージ記入

14:20 SWITCH 代表佐座/都市の生物多様性についてのレクチャー

14:30 グループワーク/猿楽小4年生でできる分別

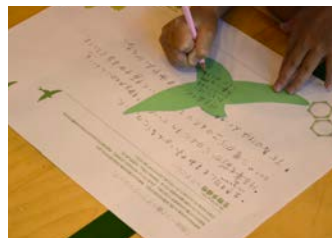
14:55 東急不動産ホールディングスとSWITCHからのコメント

15:00 終了



## TENOHA代官山 見学

小学生はグループ別にTENOHA代官山の「生物多様性」の取り組みを見学しました。400種類の緑の中に隠れている「在来種」について紹介しました。ケヤキ、ヤツテ、枝垂れ柳などの在来種の緑を求め、在来種の生き物であるヒヨドリ、アゲハ、熊蜂、マルカメムシ、スズメ、シカトンボについて話しました。小学生達はTENOHAを通して、都市の中の生活は人間だけが住む場所ではなく、生き物や植物のマイホームであることを認識しました。TENOHA室内に唯一生えている在来種「ナギの木」を見つけてもらい、外だけでなく室内でも在来種が生きていけること。そして、2階に生えている60種類の植物、ローズマリー、レモングラス、ミントを使用しカフェで飲み物やカレーに使うことで食の自給自足について紹介しました。



## 東急不動産ホールディングス レクチャー・TENOHAのお客様へのメッセージ

TENOHA代官山で見学した生物多様性のおさらいをしながら、「脱炭素」「循環社会」「生物多様性」のつながりを作っていることについて伝えました。東急不動産では、人も生き物と一緒に気持ちよく過ごせる場所をエコロジカルネットワーク、TENOHA、そしてたくさんのほかの場所でも実施していることをレクチャー。TENOHAで取り組んでいる見学した中で「スゴイ！」と思った点と自分でも実践したいアイデアを「TENOHAのお客さんへのメッセージ」としてワークシートと鳥型のメッセージカードに1人ずつ記入するワークショップを実施しました。



## 一般社団法人 SWiTCH レクチャー・グループワーク

アイシュタインの言葉によると、「もしも地球上から蜂が消えたなら人類は4年で滅亡するだろう」と言われています。それだけ、私達人間の食は蜂に頼っています。私達人間だけが生きやすい社会を作るのではなく、生物達も住みやすい社会を作るために、まずは温暖化を防ぐことが大事です。今回は小学生に身近な食について再度お話をしました。現状日本では1年間に東京ドーム5個分の食ロスを生んでいます。捨てられたご飯は燃やされ、二酸化炭素が発生し、地球温暖化を加速していることを伝えました。



## 4年生のクラスアクションアイデア

食品ロスを減らすために、「給食の食べ残しゼロにするために何ができるか」について4人ずつのグループに分かれて考えました。子供達は今回の授業のレガシーとしてグループごとで実践できる食ロス宣言を実施しました。

### アイデアリスト

- みんなが好きな給食だけ出す。弁当を持ってくる。
- 食べ物を共有して自分が食べられるものを食べる
- 学校に残った給食を肥料にする。クラス対決で食べ残しが少ない方を表彰する。
- クラス対抗で完食対決をする
- 給食を食べたい人が食べたくない人の減らした給食をおかわりとして食べる。
- 苦手なものを好き嫌いせずに食べるチャレンジをできるようにする！
- 家から弁当を持って来る
- 給食を作る人に給食の量を減らしてもらう
- 他のクラスの人に分ける。タッパーに残った給食を入れて家に持って帰る。

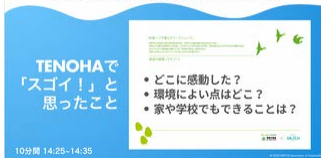
## 保護者・来場者とのつながり

第3回目に記入した鳥型のメッセージカードはTENOHの2階にタペストリーとして飾られました。

その隣には前回展示をした「脱炭素」「資源循環」のメッセージも掲示されています。小学生達がスゴイと感じたTENOHの取り組みについてのコメントをぜひ読みに行ってください。

さらに、タペストリーのそばには小学生へのメッセージノートを設置。小学生達のタペストリーへの感想やコメントをぜひお願いします。

TENOHに来ているお客様に伝えたいメッセージに書きます



## GROUP WORK

給食の食べ残しゼロにするために  
何ができるか  
グループで考えてみよう！



## 担当者の声

### 猿楽小学校 4年担任 佐々木 満美先生・青木 智靖先生・三木 由喜乃先生

子供たちは、SDGsへの取組について、だんだんと自分事として考えることができるようになってきました。今回はそんなタイミングでのTENOH見学となりました。今回は、生物多様性の視点からSDGsへの取組について学べ、動物と植物の関係性について具体的に知ることができました。クラスでは、食品ロスについて、給食の食べ残しを減らそうとする具体的なアクションが始まりました。全3回で学んできたことを生かして、SDGsについての探究学習を深めてほしいと感じました。

### 東急不動産ホールディングス 松本恵様と児玉智美様

夏休み明け、元気そうな子どもたちにTENOH代官山や当社が行う「生物多様性」の取組についてレクチャーを行いました。生物多様性とはなにか、在来種がどうして大切なのか、建物の緑化がなぜ必要かなど、難しそうな話題にも子どもたちは真剣に楽しそうに学んでくれました。

今後子どもたちは、先生と一緒に「給食の食べ残し」問題について取り組むとのこと。ワークショップで学んだことが子どもたちに何を残してどんなアクションに結び付くのか、今後が楽しみです。当社としても、引き続き子どもたちの学びに貢献していきたいと思っています。

## ●TENOHA見学のとワークショップの様子

